



2024.4.11

AtomOS 11.05.00 ファームウェアリリースノート

Ninja

インストール方法

ファームウェアのアップデートを開始する前に、Ninja を主電源に接続することをお勧めします。

1. フォーマット済みの SSD をドッキングステーションに挿入してください。
2. ダウンロードしたファイルを解凍し、ATOMNJA.FW ファイルを SSD のルートにコピーしてください。
3. SSD をドッキングステーションから抜いてください。(OS のガイドラインに従います)
4. Ninja に SSD を挿し込んでください。
5. Atomos Connect をお持ちの場合は、この FW リリースの一部としてモジュールのファームウェアも更新する必要があるため、電源を入れる前に Atomos Connect がデバイスに接続されていることを確認してください。
6. Ninja の電源を入れると、ファームウェアのアップデートが自動的に開始されます。
注意: Ninja の電源が入っている場合、新しいファームウェアを含むドライブを挿入すると、ファームウェアのアップデートを実行するよう促されます。
7. アップデートが完了すると、Ninja の電源が切れます。
8. Ninja の電源を入れ直すと、デバイスは自動的に Atomos Connect アクセサリーのアップデートを開始します。
9. ファームウェアのアップデートが正常に完了したかどうかを確認するには、メインメニューに移動し、情報タブにスクロールします。
注意: Ninja にファームウェア 11.05.00 が正常にインストールされると、Atomos Connect のファームウェアを更新するために本体が再起動することがあります。ファームウェアのインストールを中断しないでください。

新機能

AtomOS 11.05.00 は、OS11 デバイスに接続されたワークフローのためのいくつかの新機能を追加し、使いやすさを強化します。

NDI RX 機能追加

Ninja と Shogun シリーズで NDI TX(送信)、NDI RX(受信)の実装が可能になり、統合を完了します。ユーザーは、Connect 対応の Atomos デバイスを使用して、Wi-Fi 経由で NDI 対応製品から NDI RX フィードを受信することができます。

NDI RX 仕様

- ・対応 NDI 規格: NDI HX2
- ・対応解像度: 1280 × 720, 1920 × 1080, 3840 × 2160
- ・対応フレームレート(プログレッシブのみ): 23.98, 24, 25, 29.97, 30, 50, 59.94, 60
- ・対応オーディオコーデック: PCM, AAC

注: NDI RX モードでは録画はできません。

注: NDI TX と RX は同じトークンで起動します。以前に、NDI TX を購入し有効化した場合、NDI RX 機能を利用するには、AtomOS11.05.00 をインストールするだけで対応します。まだ、NDI をアクティベーションしておらず、これらの機能を仕様したい場合は、my.atomos.com にアクセスして、NDI アクティベーションを購入してください。

NDI TX 機能改善

AtomOS 11.05.00 をインストールすると、ネットワーク経由で NDI 信号を送信しながら、ProRes、DNx、H.265 で録画できるようになりました。

このアップデート以前は、録画は H.265 のみに制限されていました。

NDI ディスカバリーサーバーの実装

NDI ディスカバリーサーバーを使用することで、サービスディスカバリーに mDNS を使用する必要がなくなり、ネットワークへの負荷が軽減されます。メインメニューの NDI タブで選択可能です。

HDMI ファイルネーム機能の搭載

プロ仕様の SDI-Cine カメラですでに実装されていた機能ですが、HDMI カメラにも初めて搭載されました。

Nikon のフラッグシップカメラ Z9 のユーザーは、Atomos レコーダーとファイルネームを一致させることができるようになりました。

これは、Atomos Connect 対応デバイスを使用して高度な Camera to Cloud ワークフローに進もうとしている Z9 撮影者にとって、画期的なことです。Frame.io や Sony CI Media などの一般的な C2C サービスにアップロードされたプロキシクリップは、内部で記録された ProRes、ProRes RAW、または Nikon N-RAW クリップと同じファイル名を共有するため、Atomos レコーダーから記録およびアップロードされたプロキシを簡単に置き換えることができます。

使用感の向上

AtomOS 11.05.00 以降、現在設定されているデバイスモードで使用/選択できない機能にアクセスしようとすると、デバイスにダイアログボックスが表示されます。これにより、例えば記録ボタンがグレーアウトしている理由を特定するのに役立つだけでなく、トラブルシューティングに関連する提案や背景情報を提供することができます。

例)カメラが YCC Video を出力しているときに ProRes RAW で録画しようとすると、カメラの RAW 出力を有効にする必要があることを示すダイアログボックスが表示されます。

今後のリリースで解決される既知の制限事項

- 録画モードと再生モードを切り替えた際、Wi-Fi およびイーサネット接続の再確立に最大 10 秒かかる場合があります。システムが自動的にネットワークに再接続するまで時間をおいてください。
- 再起動後、デバイスがインターネットに接続されるのを待ってから C2C の録画を開始してください(最大 10 秒かかる場合があります)。接続が確立するのを待たないと、C2C の保存先フォルダに重複してアップロードされてしまう可能性があります。
- RAW+プロキシ C2C モードで、Sony FX9 からの 2Kp59.94 RAW フィードが供給されている場合、録画は無効になります。
- C2C モードに切り替えると、モニター画像が一瞬マゼンタがかかった色で表示されることがありますが、すぐに元のモニター色に戻ります。
- RemoteView モードでは、フレームレートを途中で切り替えると UI がフリーズすることがあります。RemoteView の使用中は、フレームレートの変更を行わないことをお勧めします。
- 録画フォーマットとして H.265 を選択した状態で DCI 4K 解像度に切り替えると、RemoteView が期待通りに動作しない場合があります。RemoteView モードで記録形式として H.265 を選択する場合は、16:9 に固定することをお勧めします。
- 720p を HDMI/SDI 経由で他の機器に出力する場合、受信側で画像のアーチファクトが発生する可能性があります。
- 720p50 および 720p59.94 で記録された H.265 クリップを再生すると、ズームおよび波形モニター機能が無効になります。
- 記録フォーマットに H.265 を選択した場合、Network Record Control は使用できません。
- Live Streaming は、標準 YCC 422 ビデオ入力を使用し、記録コーデックが ProRes または DNx に設定されている場合にのみ使用できます。ProRes RAW または H.265 が記録コーデックとして選択されている場合、ストリーミングは利用できません。
- YCC SDI 入力 で ProRes RAW 記録モードを起動した場合、モニタリング画像が正しくない場合があります。ProRes RAW モードで Ninja に RAW 信号を出力しながらのモニタリングとレコーディングは期待通りに動作します。
- HDMI Compatibility モードを選択したまま異なるカメラに切り替える場合、新しいカメラを接続する前に本体を再起動してください。
- 1 つの Atomos Connect に 2 つの AtomRemote アプリを接続すると、パフォーマンスが低下する場合があります。1 つのデバイスにつき、1 つの AtomRemote アプリのみをペアリングしてください。
- デュアルレコードを有効にして DCI アスペクト比で撮影すると、プロキシファイルは 16:9 のアスペクト比にトリミングされます。